

私が見て、目撃したままのガネーシャ原理

ヴェーダ ナーラーヤン氏

サイの教育機関の卒業生であるヴェーダ ナーラーヤン氏は、1976年に布林ダーヴァン（バンガロール）にあるババの大学に入学しました。1981年にこの大学で学士号を取得した後、彼はバガヴァンのご指示によりバンガロール大学に進学し、金メダル（首席）で修士号（哲学）を取得しました。その後、マイソール大学から優秀な成績で修士号（サンスクリット語）を授与されました。プラシャーンティ・ニラヤムでは顔なじみである彼は、30年近くサティア サイ高等学校でサンスクリット語の教鞭を取りながら、2004年にプラシャーンティ・マンディールでヴェーダの吟唱が開始されて以来、ずっとヴェーダの吟唱をリードしています。

忘れ難い、初めてのヴィナーヤカ・チャトルティ

1976年は、私が神と共にヴィナーヤカ・チャトルティの日を迎えるという大きな幸運を授かった最初の年でした。私は布林ダーヴァン（ベンガルール）の大学に入ったばかりでした。その日、スワミはプージャー（儀式）をするために、ブラフマシュリ・カマヴァダーニ・ガル（卓越したヴェーダ学者）を連れて、学生寮にお見えになりました。私たちはガネーシャ像を作っていたのですが、スワミは私的においでになり、礼拝のためにお座りになりました。



ブラフマシュリ・カマヴァダーニ・ガルとスワミ

この礼拝が行われていた時、スワミは最初にこうお尋ねになりました。

「ガネーシャはどこですか？」

カマヴァダーニ・ガルは答えることができませんでした。次の瞬間、スワミは手を回して、美しい銀色のガネーシャを取り出されました。スワミはこの物質化したガネーシャ像を祭壇に安置されました。

それから、スワミは再びお尋ねになりました。

「母親がいなければそこに息子がいられますか？ 母親もそこにいるべきです」

スワミは再び手でくるくると円を描いて、今度は母なる女神、パールヴァティーの美しい像を物質化なさいました。ババ様はこの像も手渡して、両方を礼拝しなければなりません、とおっしゃいました。私はその驚くべき光景をはっきり覚えています。というのは、スワミがガネーシャとパールヴァティーを相伴って創造されるのを見たのは初めてだったからです。

当時、ラクシュミーナラシンハン博士が学寮長の補佐でしたが、彼は毎日の礼拝はこれら2つのバガヴァンの創造物のためになされるべきだと感じました。少なくとも4年間、私はこの礼拝を行う素晴らしい幸運に恵まれました。その上、それはホワイトフィールドのシュリ・サティヤ・サイ総合病院がスワミによって開設されたのと同じ日でした。これは夜に起こりました。

一匹の鼠が神のご臨在の喜びをもたらす



ヴェーダナーラーヤナン氏とスワミ

私が布林ダーヴァンの学生寮にいたとき、市場でガネーシャ像を買う代わりに、自分たちの手でガネーシャ像を作ることができると思った学生たちがいました。そこで、彼らはどこかから粘土を持ちこみました。当時、比較的新しい建築の、隣接した学寮（S. N. シン・ブロックと呼ばれる）にはまだ誰も入居していませんでした。

そこで、学生たちは地下室に、粘土作業を始めるための木造の骨組みを置きました。突然、一匹の小さな鼠がどこからともなく現れ、ガネーシャ像が作成される厚板の下に、真っすぐ潜り込みました。学生たちは別に気にしませんでした。ガネーシャ像を作るのに4日間近くかかりました。面白いことに、その鼠はガネーシャ像が完成するまでどこにも行かず、そこに留まっていました。

当時、ダルシャンの間、私たちはバガヴァンを見るために座るようなことは

一度もありませんでした。スワミがダルシャンに来られる時、実際にスワミの周りを歩くようなことはめったになかったのです。その日、スワミがおいでになり、ガネーシャ像を作った学生に気づかれ、自発的に彼にお尋ねになりました。

「ガネーシャはどうか？」

その学生は答えました。

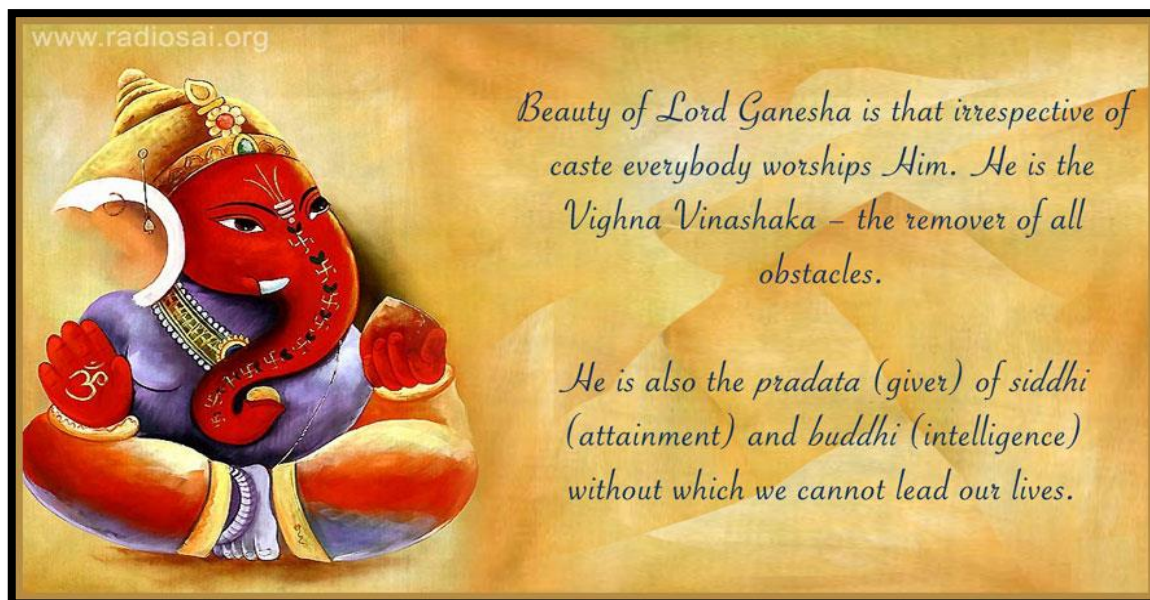
「スワミ、あなたの恩寵により、すべては上手くいっています」
すると、スワミはお尋ねになりました。

「あの小さな鼠は元気ですか？」

そのとき初めて、私たちは気づいたのです。ずっとそこにいてくださり、神像を作るのを見守っていてくださったのはスワミであったということに。

ヴェーダでさえガネーシャを称賛する

ガネーシャはヴェーダの神々のひとりなので、その相は有史以前から存在しています。リグ ヴェーダは最古のヴェーダの一つと見なされていますが、その中にガネーシャ神の記述とガネーシャ神への祈りがあります。私たちがプラシャーンティ・ニラヤムのマンディールで唱えている「ガネーシャ・スークタム」の出典はリグ・ヴェーダです。



スワミはあるとき、ガネーシャ神の美点は、カースト（社会階級）にかかわらず万人が彼を礼拝することです、とおっしゃいました。ガネーシャ神はヴィグナ ヴィナーシャカ、すべての障害物を取り除く者です。またガネーシャ神はシッディ（成就）とブッディ（理知）のプラダーター（授与者）でもあり、そ

れらがなければ、私たちは人生を送ることができません。

「ガナパティ・アタルヴァシールシャム」(ガネーシャ神を讃えるヴェーダ)は、実際、ガネーシャ神がどのように礼拝されるべきかを述べており、この中で、強力なビージャ・マントラ(効能のある真言)のことも述べられています。もしこれを唱えるなら、必ずガネーシャ神のヴィジョンを手に入れるだろうと言われて

愛しい神の特別なヴィジョン

私はどういうわけかガネーシャ神に愛着を感じており、ずっと熱心に祈ってきました。元々、私の心はむしろ合理主義者です。私は何でも実験してみたいと思います。そうせずに何かを受け入れたり、誰かに何かを伝えたりはしません。ですから私はこれを挑戦として取り上げ、ビージャ・マントラを唱え始めました。その結果、ある日、スワミがガネーシャ神としてのヴィジョンを授けてくださいました！ 小さな鼻と小さな耳を持ち、頭をあちこちに揺らしている幼子の姿で、私はガネーシャ神を見たのです。それは本当に愛らしく、心奪われる体験でした。これは、いつでも私たちが心を込めて何かをすれば、その結果は保証されていることを示しています。疑いの余地は全くありません。



多くの人がよく知っている話ですが、スワミはラマナ・アシュラムから来たスワミ・アマリターナンダに、金色のガナパティ(ガネーシャ)のヴィジョンをお授けになっています。スワミ・アマリターナンダは、スワミの許に来る前はラマナ・アシュラム(聖者ラマナ・マハリシの修道場)にいました。彼はスワミの帰依者ではありませんでした

が、スワミのことを聞いていたのです。アマリターナンダがプラシャーンティ・ニラヤムにやって来たとき、スワミが最初になさったことは、ちょうどラマナがそうしていたように、彼の愛称である「アマリタム」という名前で彼を呼ぶことでした。それが最初にアマリターナンダを驚かせたことでした。第二の驚きは、スワミがアマリターナンダを奥のインタビュールームに連れて行かれたことでした。その当時、特別な部屋は一つもありませんでした。スワミが誰かと話をした

いと思われる、スワミはその人たちを階段室へ呼ばれました。その部屋に入った者は、ほとんど居場所がないことを知っています。そこには一人の人間とスワミがお立ちになる場所しかなかったのです。それだけです。傍には二階へ上がるらせん階段があるだけでした。その場所で、スワミはアムリターナンダにお尋ねになりました。

「あなたは、7歳の時に行ったヤグニャ（供儀）を覚えていますか？」

「はい、スワミ。私はガナパティ・ホームム（護摩供養）を行いました」

ガナパティ・ホームムとはどういうものでしょう？ 彼は21日間マントラを唱え、聖なる火に1008個のココナッツを捧げなくてはなりませんでした。

当時はたくさんのココナッツの木がありました。ナムブディリ（バラモン階級の独特の集団）はとても裕福で、彼らのために一切が世話されていました。ですから、少年の時にアムリターナンダはそのような供儀を21日間行ったのです。ビージャ・マントラが詠唱されることは、ガナパティ・アタルヴァシールシャムの中で言及されているのと、全く同じであることを私は発見しました。幼い少年であったアムリターナンダは、そのマントラを唱え、この儀式を熱心に執り行ったのです。

スワミはアムリターナンダにお尋ねになりました。

「パーラシュルティ（聖典によって約束された報酬）は何ですか？」

アムリターナンダは答えました。

「スワミ、21日間の最後に、ガナパティが炎の中に金色の姿で現れ、最後の供物を受け取ります」

すると、スワミはお尋ねになりました。

「それは起こりましたか？」

彼は答えました。

「いいえ、スワミ。おそらく、私が小さな子供だったからでしょう」

すると、スワミはおっしゃいました。

「いや、もし聖典の中でそのように述べられているなら、それは起こらなくてはなりません。その人が小さいとか大きいとかは問題ではありません」

スワミは更に付け加えられました。

「あなたが今日ここにいる主な理由はそれなのです。今、私はあなたにそのヴィジョンを授けましょう」

それから、バガヴァンは聖典の中で「コーティ・スーリャ・サマ・プラバー」

とされている通り、何千万の太陽の光輝に満ちて、彼の目の前に現れました。その後、アマリターナンダは気絶してしまいました。彼は別の部屋に移され、正気に戻るまで3日間、休んでいなければならなかった、と後からカストゥーリ博士が話してくださったのを覚えています。それはアマリターナンダの啓示的な体験でした。

象の顔をした神を礼拝する意味

さて、この小さな美しいガネーシャ神を礼拝する意味は何でしょう？ 他の神とは違って、彼は象の頭を持っています。象は最も知的な動物です。彼らは「ヴィガタハ・ナーヤカハ」と言われるように、リーダー（先導者）なのです。象は先頭を歩きます。象たちの障害となるものはありません。彼らはすべての木々を取り除き、森の中に自分たちの歩く道を作ります。実際、他のすべての動物たちは道を見つけるために、象の後から行くことを好みます。密林の中でさえ、象は自分の道を見つけます。それが、ガネーシャ神が



象の頭を持っているもう一つの意味です。世俗的なものであれ霊的なものであれ、ガネーシャ神は私たちの人生からあらゆる障害物を取り除いてくれるのです。

ガネーシャ神は四本の手を持っています。一本の手にパシャ（縄）を、もう一方の手にはアंकシャ（斧）を持っています。三本目の手にはお菓子をもち、四本目の手でアバヤム（祝福）を示しています。これらの意味は何でしょう？ もしあなたがガネーシャ神に祈れば、彼は何をするのでしょうか？ 彼はまずお菓子を見せて、あなたを誘惑し始めます。彼はこう言います。

「いらっしゃい、あなたにお菓子をあげましょう」

私たちはみんなお菓子が大好きですから、ガネーシャの近くに行きます。

近くに行くとガネーシャは何をするでしょう？ パシャ（縄）であなたを彼に縛り付け、あなたが離れることを許しません。そしてガネーシャは、斧であなたのあらゆる世俗の繋がり（関係）をバラバラに切断するのです。最後に、ガネーシはあなたに何を与えるでしょう？ 彼はあなたにアバヤム（加護）を与えます。

これが、ガネーシャ神が四本の手に持っているもの — パシヤ（縄）、アंकシヤ（斧）、お菓子、およびアバヤハスタ・ムドラー（加護の印）の意味です。

ガネーシャは小さな鼠、ムーシカをヴァーハナ（乗り物）にしています。それは大人の鼠ではなく、ほんの赤ちゃん鼠です。私たちは、巨大なお腹をしたガネーシャが、どうやってそんな小さな鼠に乗ることができるのだろうと不思議に思うかもしれません。その内的意味は、鼠は常に暗闇を好むものだということです。鼠はどこでも暗闇のあるところにいます。鼠は光が好きではありません。鼠は私たちの内なる暗闇、つまり私たちの無知を示しています。ガネーシャ神は鼠の上に座っており、彼がそこにいるとすべてが明るく照らされます。ですから、ガネーシャは私たちの無知を取り除き、ブッディ（理知）とシッディ（成就）も与えます。というわけで、私たちは他の誰かに祈る前に、まずガネーシャ神を礼拝するのです。

カリユガ（暗黒の時代）には、少数の神々が非常に強力であると言われていま



す。1人はガネーシャ神であり、もう1人はデーヴィー（女神）です。これらの神々は、私たちの主のように、スラバ・プラサンナ、容易に喜ばされ、帰依者たちの目の前に現れます。クリシュナ神のヴィジョンを得ることは難しく、シヴァ神でさえとても難しいのですが、ヴィナーヤカのヴィジョンを手に入れるのはいとも簡単です。ヴィナーヤカは簡単に喜ぶ子供のようなものです。

ガネーシャ — バガヴァンのお気に入りの子ども

長年の間、スワミはガネーシャ神を大いに重視してこられました。プラシャーンティ・ニラヤムの入口にはガネーシャ神が座し、

中に入ってくるすべての帰依者たちを出迎えます。神がアヴァターの姿をお取りになった時、私たちは神のダルシヤンを受けに行きますが、いったい誰が私たち

を歓迎してくれるかを想像してみてください。それは本当に、神ご自身の息子なのです！

誰かの家を訪問したとき、その家の主人か、主としてその家を任されている者が出てきて、私たちを歓迎するのは当然のことです。ですから、小さなガネーシャ神がそこに座り、すべての人を歓迎するのはとても重要なことなのです。というのは、ガネーシャは私たちを彼の主のところへ真っすぐ連れて行くのが大好きだからです。

ガネーシャは言います。

「あなた方は正しい場所に来ました。ここで私の両親（ババはシヴァとシャクティの化身）があなたを待っています。どうぞ来てお会いください。あなたは至高の平安の住居へ入ろうとしています。主なる神は、今世だけでなく来世のためにも、あなたに至高の平安を授けてくださるでしょう」

スワミがガネーシャをそこに、まさに正門に安置されたのは、それが理由です。そればかりか、スワミは子供たちのためにもガネーシャ神を学校に安置されました。後に、スタジアムの建築が始まった60歳の御降誕祭の時、さまざまな神々が持ち込まれました。小さなガネーシャとパールヴァティーもありました。スワミは慈悲深くも、そのガネーシャ神を中高等部へ送ってくださったのです。それは7フィート（約2メートル）もあるご神像でした。今日でも、そのガネーシャ像は私たちの学校に鎮座しており、中に入る前にすべての子供たちは彼にご挨拶をします。試験期間中はお願いごとでいっぱいです！

それはさておき、サイクルワントホールが建築中だった時、あるヴィナーヤカのご神像が持ち込まれました。それは黒い色をしており、年月を経た古風な容貌でした。スワミはそれがもっと金色であるべきだと思われました。そこでスワミはおっしゃいました。

「君たち学生がその像の黒色を取り除き、磨いてみてはどうですか？」



私たちは自分たちのレベルで最善を尽くしましたが、それは起こりませんでした。スワミご自身が、私たちがこれを行うのを直々に観察なさっていました。私たちはご神像の裏側を磨き始めましたが、スワミはおっしゃいました。

「もう放っておきなさい、何もしなくてよろしい」

スワミがサイ クルワントホールに座られたので、そのガネーシャ像はバガヴァンの玉座の背後に、主要な神として安置されました。

2011年4月のマハーサマーディの後、スワミのサマーディ（墓所）はその場所に作られなくてはならないと関係当局の方々が感じていた時、このガネーシャをどこへ移動すればよいかという問題が生じました。一時的に、そのガネーシャは内部に保管されていました。後に、彼らはその同じガネーシャ像を、今では帰依者たちのために開放されている、ゴープラム門の正面に安置したいと考えていることがわかりました。人々がこの門から入ってくる時、ここにもガネーシャ神がいます。これはすべて、神のサンカルパ（ご意志）なのです。

それだけではありません。この安置が行われた日、私はそこにいたのですが、それがあの同じ古いガネーシャ像であるとは信じられませんでした。というのは、関係当局の方々がその像を研磨に出していたからです。戻ってきた時、それは、スワミがあの日望んでおられた金色のガネーシャになっていたのです！



それは何か取るに足りないことかもしれませんが、スワミは既に、それが金色のガネーシャになるというサンカルパ（ご意志）を為しておられたのです。それが起こったことです。それ自体の適切な時が来たに過ぎません。その日、私はラーマとラクシュマナとシーターのご神像と、ゴープラム門との間に、このガネーシャ神が安置される

のを見たとき、自分の目を信じることはできませんでした。すべてのものには、それ自体の美しく整う時があるのです。私たちは、神のご意志に全託し、常に神と波長合わせして人生を送ることができるよう、そのシッディとブッディをお授

けくださるよう、神に祈らなければなりません。

出典：ラジオサイ・ジャーナル H2H

http://media.radiosai.org/journals/vol_11/01SEPT13/The-Ganesha-Principle-as-I-Have-Seen-and-Witnessed-By-Mr-Veda-Narayan.htm